

いま注目の企業紹介

日之出紙器工業株式会社



九州・山口地区をテリトリーとし、同地域では段ボールメーカーの最大手。特に鹿児島県ではトップランナーですね。
親会社のレンゴー（株）のグループ戦略もあり、合併を繰り返して鹿児島地区ではトップシェアです。取引先は4千社ですが、信用リスクの高い業界であり、また、廉価の競争にさらされやすいこともあって、健全経営を基本に歩んできました。

難しい運営が求められますね。

ブランド力が必要とされないと言ってもいいかもしれません。昭和37年に会社更生法の適用を受けている歴史があります。ご承知の談合問題もありましたが、私たちににとってはかえって地力を発揮できる機会と捉えています。自己資本率は57%です。確実な経営をしなければ生き残れないとのDNAが染みついているので、これからも財務体質を強化していきます。

戦略的に描いていらっしゃるポイントをお聞かせください。

社内の大原則としてPQDの基本スタイルを貫いています。つまり、価格・品質・デリバリーです。今日受注して明日配送が可能となるシステムを追及しています。それも小口で対応できることが求められます。スピード感ある仕事を可能にする生産部門のセット力無しには成立しません。



専務取締役
足立昭彦 様

他の追随を許さない仕組み作りですね。
美粧ケースの部門では先進性が注目されています。

デザインでは質の向上に磨きを掛けています。また、そのための人的育成でも力を入れているところです。国際的な賞もこの2年間で2つ頂きました。外装と思われるかもしれませんが、商品はラベルから入ると言います。つまりは商品作りの上流を押さえることが勝負にもなってくると考えています。

顧問弁護士にグレイスを指名頂きました。

当然専門性に期待しました。それも守備範囲が広いことを求めています。模倣デザインの歯止め、意匠問題、また、高い販売力も売り掛けに支えられていること、契約の複雑化など課題が多くあります。それとコンプライアンスについては社内の体制強化が重要です。一段落していますが、監査的な視点での役割も期待しています。

グレイスの動きはいかがでしょう。

もちろん、これまでも弁護士との契約はありました。時代の変化でスピード感、相談しやすい敷居の低さがより求められています。フットワーク良く、直ぐに対応してもらっている手応えがあります。訴訟の前段階で解決していければ何よりですが、相手を引き出していく場面などでも大いに相談したいところですよ。

最後にグレイスへのメッセージをお願いします。

お客様を迎える姿勢が素晴らしいです。また、チーム制を敷かれて効率よく働いている印象があります。時間管理もできていると思いますが、クリエイターは頭と身体を休めてこそ、新しい知恵や知識を吸収できますから、若さに相応しく大いに街に出掛けて欲しいです。

日之出紙器工業株式会社

業 種／製造業
本 社／〒899-2513
鹿児島県日置市伊集院麦生田2158
工 場 数／九州・山口6拠点
代 表／代表取締役社長 塩崎 巖
創業・設立／昭和27年5月
年 商／145億6千万円
従業員数／389名(平成26年8月現在)



※これまでのインタビューの様子はHP「顧問先様の声」にてご覧頂けます。

